



WaterAid/ Ernest Randriamiala

特定非営利活動法人
ウォーターエイドジャパン(認定NPO)

〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目10-6

ローレンス・ノダ301

Email: info-japan@wateraid.org

Tel:03-6240-2772 / Fax:050-3488-2040

<http://www.wateraid.org/jp>

/WaterAidJapan /WaterAidJapan



WaterAid/ Ernest Randriamiala



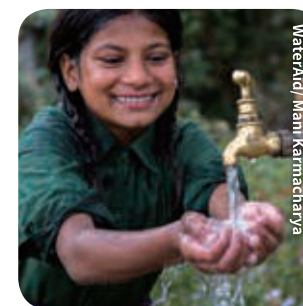
WaterAid/ Ernest Randriamiala



WaterAid/ Ernest Randriamiala



WaterAid/ Mani Karmacharya



WaterAid/ Mani Karmacharya



WaterAid/ Mani Karmacharya



WaterAid/ Ernest Randriamiala



WaterAid/ Ernest Randriamiala



WaterAid/ Mani Karmacharya



Annual Report

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

年次報告書

2016.04-2017.03

A world where everyone,
everywhere has clean water,
sanitation and hygiene.



WaterAid

INDEX

目次	01-02
水・衛生と持続可能な開発目標(SDGs)	03-04
ウォーターエイドのビジョン・ミッション・活動	05-06
2016年度の活動—公平性	07-08
2016年度の活動—持続可能なサービス	09-10
2016年度の活動—統合	11-12
2016年度の活動—衛生習慣	13-14
ウォーターエイドの活動国	15-16
日本の活動	17-18
ウォーターエイドを支えてくださった皆さま	19-20
会計報告・団体概要	21-22



水と衛生

人間が健康に、尊厳をもって生きる。そのために絶対に欠くことのできないものが、水と衛生です。清潔な水、衛生的なトイレ、適切な衛生習慣。この水・衛生を確保できなければ、貧困の根絶や教育の向上、経済の成長も、決して実現することはできません。皆さまの温かいご支援のおかげで、これまでにウォーターエイドは世界中の貧しい地域に暮らす何千万人もの人々に、この水・衛生を届けることができました。まだ道は半ばですが、世界中が力をあわせれば、すべての場所で、すべての人に水・衛生を届けるという大きな目標を、私たちの世代で実現することができるとウォーターエイドは確信しています。

皆さまのご支援が大きな成果に

支援者の皆さまの大きな力と各国の政府諸機関、企業・団体の継続的な努力によって、確実に「すべての人が水・衛生を利用できる世界」の実現に近づいています。

■ 1990年以降、水源の改善によって26億人が安全な飲み水を利用できるようになりました。^{*1}

■ 1990年以降、改善された衛生設備を21億人が利用できるようになりました。^{*1}

■ 1981年以降、ウォーターエイドは2,580万人に清潔な水を、2,510万人に適切なトイレを届けることができました。

まだ続く水・衛生の危機

世界中で水・衛生を確保できる人が増えている一方で、人口増加や都市化、気候変動といったさまざまな要因から、多くの人々が清潔な水や衛生設備を利用できず、過酷な暮らしを強いられています。

■ 衛生的なトイレを利用できない人が、今も23億人います。これは世界人口の3分の1に相当します。^{*2}

■ 清潔な水を利用できない人が世界中であと8億4,400万人、9人に1人残されています。^{*2}

■ 不衛生な水しかない、満足なトイレがない、衛生習慣が不十分といったことが原因で、毎年28万9,000人の子供たちが5歳になる前に下痢性疾患で命を落としています。毎日およそ800人、2分に1人の子供の命が失われています。^{*3}

■ 清潔な水や衛生環境がないために、毎分1人の新生児が感染症で命を落としています。^{*4}

■ 世界中の学校のうち、31％は清潔な水を利用できず、34％は適切なトイレがありません。^{*5}

■ アフリカの保健医療施設の42％は、清潔な水を使うことができません。^{*6}

*1. WHO/ユニセフ共同モニタリングプログラム(JMP)2015年報告

*2. WHO/ユニセフ共同モニタリングプログラム(JMP)2017年報告

*3. WASHWatch.org *4. WHO 2015年

*5. ユニセフ「Advancing WASH in Schools Monitoring」2015年

*6. WHO/ユニセフ 2015年

「すべての人に水・衛生を」に世界が合意 ～持続可能な開発目標(SDGs)～

2015年9月、150を超える国連加盟国の首脳が参加した「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択され、貧困や飢餓、保健、気候変動などに関する17の目標を、2030年までに達成することに世界が合意しました。目標6は「すべての人々の水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する」。水と衛生が、貧困をなくすために、持続可能な開発を実現するために不可欠であることを、世界の首脳が公に認めました。



持続可能な開発の基礎となる目標6 ～目標6:すべての人々の水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する～

水・衛生の確保には、大きな波及効果があります。誰もが水・衛生を利用できるようになったコミュニティでは、人々が健康に、公平で生産的な暮らしを送ることができます。水・衛生は目標6だけで完結するのではなく、貧困や飢餓、保健、格差といったさまざまな問題を解決するためにも、極めて重要な意味を持っています。目標6を実現することで、他にも多くの目標を実現に近づけることができます。



水・衛生がないことで、長時間の水くみや病気の治療等の負担が増え、貧困から抜け出すことが困難になります。2015年にトイレがない等、衛生環境の不備が世界経済に与えた損失は22兆円。うち12兆円は、下痢等によって人々が早期に命を落とす人的損失によるものです。^{*7}



WHOによると、栄養不良の50％は、慢性的な下痢や腸内寄生虫、その他の感染症など清潔な水と適切なトイレ、衛生習慣がないことが原因です。



水・衛生を利用できるようになれば、コレラやトラコーマ(目の感染症)等の病気が減少、人々の健康が大きく改善されます。水・衛生は乳幼児死亡率にも関係しており、新生児が亡くなるケースの20％は、清潔な水で体を洗い、手洗いた人が衛生的な環境で世話することによって、防ぐことができると言われています。



学校でプライバシーの保てる適切なトイレを利用できるようになれば、女子生徒が思春期になっても学校に通い続けることができます。



家の近くで水を得ることができない地域では、多くの場合、遠くまで水くみに行くのは女性、女の子の役割です。また、野外排泄をせざるをえない女性たちは、その道中、嫌がらせや暴力などの危険にさらされています。



世界の都市人口は急増しており、2030年までに人口の3分の2が都市・町に住むようになると予測されています。途上国では、都市・町の拡大が、都市計画のないまま急速に進んでおり、水・衛生サービスが追い付いていません。

*7. 株式会社LIXILグループ「衛生環境の未整備による社会経済的損失の分析」2016年

ウォーターエイドの活動



ウォーターエイドのビジョン

すべての人が、すべての場所で、清潔な水と衛生をあたりに利用できる世界。国際NGOのウォーターエイドは確固たる決意をもって、このビジョンを私たちの世代で実現することを目指します。

ウォーターエイドのミッション

清潔な水、衛生的なトイレ、正しい衛生習慣。健康で尊厳ある暮らしに欠かせないこの3つを届けることで、ウォーターエイドは世界で最も貧しく、社会的に取り残されている人々の暮らしを改善していきます。

ウォーターエイドの戦略

2015年、ウォーターエイドは、2030年までにビジョンを実現するためには、どのような戦略をとるのが最も有効であるかを考えました。グローバルレベル、各国レベル、コミュニティレベルで「すべての人による水・衛生の利用」を阻む原因を洗い出し、それを解決するための4つの戦略(右ページ)を設定しました。例えば「持続可能なサービス」。これは、給水設備やトイレが作られたり、衛生習慣トレーニングが行われたりするものの、その効果が持続せず、給水設備が壊れたまま放置されたり、トイレが使われなくなったり、衛生習慣が根付かなかったりといったことが多く起きていることを反映したものです。

課題

ウォーターエイドの取り組み

公平性

Equality

清潔な水と適切な衛生設備を利用できる人口の割合は、富裕層と貧困層、都市と地方で大きな差があります。カンボジアの場合、都市部で衛生設備を利用できる割合は、富裕層100%であるのに対し、貧困層は36%にとどまっています*。また、宗教、民族、カーストなどを理由に差別を受けがちな人々は、近くに給水・衛生設備があったとしても、それらの設備の利用を認められていないこともあります。さらに、障害者は、途上国の貧困層に5人に1人とも言われており、給水・衛生設備を利用する際に困難に直面することが多くあります。
*WHO/ユニセフ共同モニタリングプログラム(JMP)2015年報告

ウォーターエイドは、性別、年齢、障害、経済状況などにかかわらず、すべての人が水・衛生の利用機会を得られるよう、格差をなくすことに取り組んでいます。水・衛生の利用が困難である人々に対し、利用を阻む原因を分析、その原因を取り除くようにしています。一例として、設備を作る際に、スロープや手すりをつけて障害者・高齢者が利用しやすくしたり、女性や社会的弱者層が、給水設備の設置場所の決定等、プロジェクトの計画・意思決定に参加できるよう配慮したりしています。

持続可能なサービス

Sustainable Services

給水・衛生設備は、設置して終わりではなく、永続的に利用できるようにする必要があります。衛生習慣も一時的なものではなく、しっかりと根付かせなくてはなりません。ところがウォーターエイドの活動国には、給水・衛生設備の維持管理や衛生習慣の促進に必要な組織・体制が脆弱、または存在していない国が多いため、住民が給水・衛生設備の維持に苦勞し、せっかく改善された衛生習慣が続かないことがあります。水・衛生が持続しない要因としては、管理体制の不備、資金・人員不足、ガバナンスの不備、気候変動、水源の需要拡大などがあります。

住民が永続的に水・衛生を利用可能にするためには、給水・衛生設備やしきみに不備が生じた際に、住民が声をあげ、現地政府がそれを聞いて応えるというしくみが、適切に機能することが重要です。ウォーターエイドは、住民の計画立案や維持管理への参加を促すとともに、現地政府の体制強化に向けた研修を実施しています。このような活動によって、マリとパキスタンでは、ウォーターエイドが修理・設置した給水設備の90%以上が持続的に機能しています。

統合

Integration

子供の健康、女性のエンパワーメント、教育、栄養、都市開発などの取り組みが成果をあげるためには、水・衛生の取り組みが欠かせません。また、近年は気候変動による異常気象が頻発しており、洪水や干ばつの被害を受けやすいコミュニティでは、災害に強い給水・衛生設備の設置や被害の緩和措置が重要です。一方、ウォーターエイドの活動国では、これらを担当する政府機関が異なっており、政府機関間の連携がとれていなかったり、保健や教育、栄養等の政策や行動計画のなかに、水・衛生が含まれていなかったりすることが少なくありません。

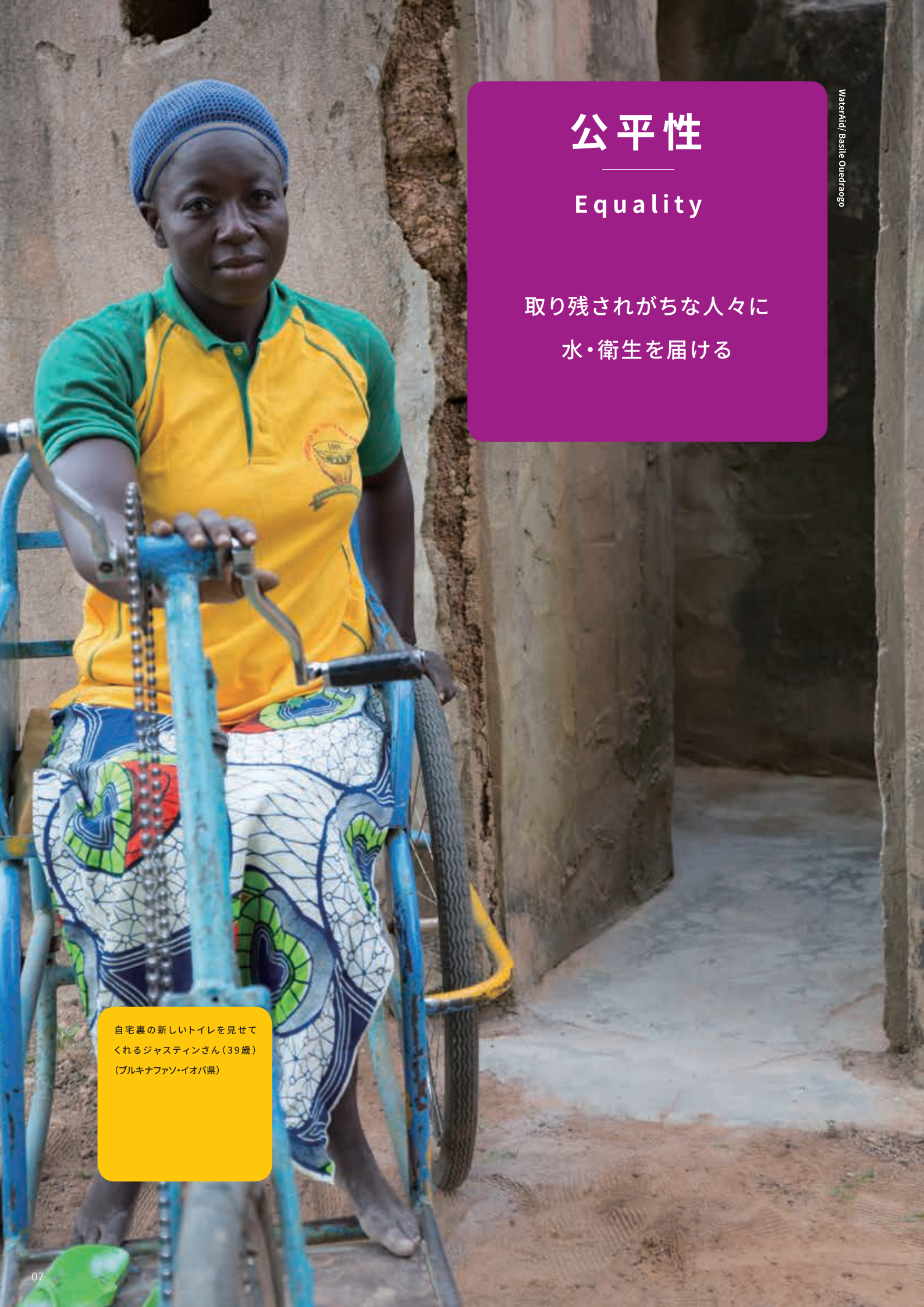
ウォーターエイドは、保健、教育、栄養、都市開発といった分野の政策や行動計画に水・衛生も含まれるよう、政府機関や他組織に対して働きかけています。また、実際にウォーターエイドが実施する水・衛生プロジェクトにおいても、地域が抱える課題に応じて、保健、教育、栄養等に関する活動と統合したり、それらの分野で活動するNGOと連携、合わせてこのような取り組みの成功事例を政府機関や他組織に示すようにしています。

衛生習慣

Hygiene

病気の予防には衛生習慣が欠かせません。適切な衛生習慣が根付かない限り、給水・衛生設備ができたとしても、その効果は薄れてしまいます。世界では、毎年約28万9,000人の子供が5歳になる前に下痢性疾患で命を落していますが、石けんを使った手洗いを習慣づけるだけで下痢の発生のリスクを半減させることができます。一方、衛生習慣の促進によって保健、社会、経済がどのように改善されるかについての理解が不足しているため、衛生習慣の促進は、政府の政策のなかでも優先順位が低いまです。

衛生習慣を改善するために、ウォーターエイドは、手洗いなどの行動を変える活動に取り組むとともに、住民が衛生習慣は健康に大切なものという意識を持って自ら衛生行動を改善できるよう支援しています。また、実際の経験をもとに、さまざまな現地組織や国際機関とも協働しながら、水・衛生セクター内外で衛生習慣改善モデルを構築し、現地政府の政策・制度に衛生習慣の促進が盛り込まれるよう働きかけています。



WaterAid/ Basile Queirogo

公平性

Equality

取り残されがちな人々に
水・衛生を届ける

自宅裏の新しいトイレを見せてくれるジャスティンさん（39歳）
（ブルキナファソ・イオバ県）

改良版の水陸両用ハンディポッド
を扱う学校教師のハッカー・ケー
さん（カンボジア・トンレサップ湖）



WaterAid/ Laura Summerston



誰も取り残さない

SDGsのテーマは「誰も取り残さない」。清潔な水・衛生へのアクセスは、すべての人が等しく持つ基本的な権利であるにもかかわらず、ジェンダー、年齢、社会的身分、人種、障害、貧困、住んでいる地域などを理由に、取り残されている人々が大半です。ウォーターエイドは、このような人々が水・衛生を利用できるようにするために、格差をなくそうとしています。

障害の有無にかかわらず使いやすいトイレを

ブルキナファソのイオバ県で、車椅子で生活している39歳のジャスティンさんは、ウォーターエイドのパートナー団体 VARENA ASSOの支援を受けて、自宅のすぐ裏に車椅子でも利用可能なトイレを建設しました。「このトイレならプライバシーを保てるので、用を足しているのを通りかかった人に見られることもなく、安心してトイレに行くことができます」と嬉しそうに話すジャスティンさん。「しかも、野外で排せつしなくて済むようになったので、井戸水が汚染されて病気になることもありません。」

低・中所得国では、障害を持つ人々は教育を受ける機会がなかなか得られず、インフラの整っていない貧しいコミュニティに暮らしていることも多いため、最も社会から取り残された、支援の届きにくい人々ということになりがちですが、水・衛生に対する権利をしっかりと主張し、適切な支援が提供されれば、必ず生活を改善することができます。

インドのウットル・プラデシュ州政府、ウォーターエイドのハンドブックを採用

ウォーターエイドインドが作成した『障害者のための家庭内衛生設備ハンドブック』がウットル・プラデシュ州政府に採用されました。今後は同州75県で配布され、障害者も安心して利用できるトイレの設置に関するガイドラインとして、政府職員、水・衛生技術者、村落自治体、水・衛生セクターの専門家、障害者団体、障害者へのサービス提供事業者、社会から疎外された人々をサポートする団体などが利用することになります。

アクセスが困難なコミュニティでトイレを広める

カンボジアにある東南アジア最大の湖であるトンレサップ湖では、10万人以上の人々が水上コミュニティで生活を送っています。住民は、貧困であったり、移民であることを理由に土地を所有できなかったり、さまざまな理由によって湖上で生活しており、就労、教育、社会サービスにアクセスすることが困難な状況に置かれています。SDGsの目標を達成するためには、このような人々にも水・衛生を届けていく必要があります。2015年より、ウォーターエイドは、現地パートナー Wetlands Work!が開発した水上トイレ「ハンディポッド」を普及するプロジェクトを展開してきました。2016年、干ばつによって水位が下がり、人々は、水上の住居を岸辺に引き上げざるをえなくなりました。そこでウォーターエイドと Wetlands Work!は、水陸両方で使用できるよう「ハンディポッド」を改良。また、「ハンディポッド」のさらなる普及を目指し、学校において衛生教育を行ったほか、商店街の「くじびき」の賞品に「ハンディポッド」を入れてもらい、住民によって「ハンディポッド」が使いたいものと認識されることを目指しました。



WaterAid / Tom Greenwood

ポンプからあふれる水で手を洗う
ノヴァナちゃん(3歳)
(東ティモール・マヌファヒ県)

新しい水くみ場で、仕事道具を手にする水利用者グループメンバーのフィロメノ・サントスさん
(東ティモール・マヌファヒ県)



WaterAid / Tom Greenwood



地域全体の取り組みで課題の把握と解消を

ウォーターエイドは2005年に東ティモールで活動を開始。当初は、農村部における給水・衛生設備の設置に注力していましたが、近年は、水・衛生サービスの持続性向上に重点を置いています。その一環として、水利用者グループがきちんと機能し、確実に給水設備の維持管理に取り組むよう、「水利用者グループ連合会」を立ち上げました。水利用者グループ連合会には、各村の水利用者グループがメンバーとして参加。水利用者グループ間の横の連携を強化する役割を果たしています。

水利用者グループ連合会が日常的に行っている業務の1つに、給水設備の維持管理をきちんと行わなくなった水利用者グループを特定し、地方政府と協力しながら、グループ再稼働のための訓練を実施することがあります。仕事にやりがいを感じられる給水設備の計画や建設など、初期の段階で結成されたグループは、運営、保守、利用料徴収といった地道な仕事が始まると関心が薄れてしまうことも少なくないからです。

ウォーターエイドは、水利用者グループ連合会の立ち上げと合わせて、村内の給水設備の状況を記録する「スコアカード」を導入しました。これは、村の給水設備の維持管理を担う水利用者グループと、給水設備を利用する村の住民の両方が、その村の給水設備の状況について採点・評価するというものです。これは、関係者全員が持続可能な給水サービスについての理解を深め、その実現に取り組むうえで、非常に有効な方法でした。村の水利用者グループと住民と一緒にスコアカードをもとに話し合い、給水設備の改善に向けた活動計画を作成、その活動の実施状況を追跡できるようになりました。この計画には次のような内容が含まれています。

- 水を利用する住民は利用料金を滞りなく納め、給水設備を丁寧に扱うこと
- 水利用者グループは資金運用の透明性を保ち、説明責任を果たすこと
- 水利用者グループは村のリーダーたちとの連携を強化すること
- 政府の現場担当者は村を訪問する頻度を増やすこと

さらなる持続可能性の向上を目指して

地方政府は、この水利用者グループ連合会による取り組みを評価しており協力的です。ウォーターエイドによる支援がなくとも、水利用者グループからの会費と政府補助金によって水利用者グループ連合会が運営されることを目指し、ウォーターエイドはさらに活動を進めていきます。

持続可能なサービス

Sustainable
Services

東ティモールの村の
給水設備を持続可能にする



WaterAid / Tom Greenwood

農村部の医療センターで手を洗う
助産師さん
(カンボジア・ボーサット州)

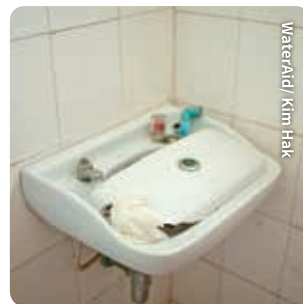
統合

Integration

カンボジアの保健医療施設の
水・衛生を改善する

保健・栄養のプロジェクトや政策に、水・衛生が重要であることを発信

保健医療施設で安全な水・衛生を確保できれば、感染の防止や医療サービスの質の向上など、大きな効果が得られます。ところがWHOとユニセフの『保健医療施設の水・衛生に関する報告書』（2015年）によると、開発途上国54か国の保健医療施設のうち、38%で適切な水へのアクセスが、19%で衛生設備へのアクセスがありません。これによって、開発途上国の保健医療施設では、不衛生な環境で治療や出産が行われることになり、病院を利用する人々、特に出産する女性たちや乳幼児の健康を脅かしています。2015年より、ウォーターエイドは「ヘルシー・スタート(Healthy Start)」と題したグローバルキャンペーンを実施。乳幼児および子供たちの健康・栄養状態を改善するためには、保健・栄養のプロジェクトや政策に、水・衛生がきちんと統合されることが重要であると発信しています。



WaterAid / Kim Hak

カンボジア農村部の医療センターで手洗いや医療器具の洗浄に使われている不衛生な流し台

カンボジアにおける清潔な保健医療施設に向けての段階的取り組み

カンボジア政府は、2025年までに水・衛生のユニバーサルアクセスを実現することを目指しています。一方、WHOとユニセフの調査によると、カンボジアで水を利用できる保健医療施設はわずか67%、衛生設備や衛生習慣についてはデータすらありません。ウォーターエイドは、「ヘルシー・スタート」プログラムの一環として、この問題に対して下記のとおり段階的な取り組みを行いました。

1. 状況を把握する

カンボジアの保健医療施設には衛生面で多くの問題があることはわかっていたものの、国のモニタリング体制が整っていないため、その実態は誰も把握できない状況でした。2015年、ウォーターエイドはWHOと連携し、保健医療施設の水・衛生に関するデータを収集する評価ツールを開発。12施設で評価を実施した結果、多くの施設において、安全な水を通年利用できる給水設備はほとんどなく、飲み水も確保できていませんでした。トイレは十分に機能していなかったり、障害のある人や妊娠後期の人が利用できないケースがほとんどでした。



2. 関係者とパートナーを特定し、正式な手順を踏む

ウォーターエイドは、同じ分野で既に活動していたエモリー大学とパートナーシップを締結。2015年下旬には、この分野に関心を持つパートナーが集まる相談会を開催し、保健医療施設の水・衛生の改善に向けての計画づくりを開始しました。その後、エン・フォット保健省長官と正式会合の機会を得て、保健医療施設における水・衛生の重要性について認識を共有した結果、保健医療施設の水・衛生改善プロジェクトを優先的に実施するという正式な覚書がウォーターエイドと保健省の間で交わされました。

3. 計画を行動に移す

ウォーターエイドはWHOなどのパートナー団体とも連携しながら、保健省とともにプロジェクトを開始しました。共同開催した第2回相談会にはNGOも参加し、保健医療施設における基本的な水・衛生の状況、医療スタッフに必要なトレーニング、政策や基準に水・衛生の項目を盛り込むには、という3つのテーマで話し合いが行われました。

4. 医療施設の水・衛生評価ツールを制定する

ウォーターエイドの評価ツールとWHOの医療施設における環境保健基準をもとに、国立公衆衛生研究所が全国的な評価ツールを開発。このツールは、カンボジア全国の保健医療施設における水・衛生の評価指針となり、具体的には①給水設備、②衛生設備、③手洗い設備、④洗浄の習慣、⑤医療廃棄物の管理に関する数値を得るために利用されます。

これからの活動

ウォーターエイドは今後、保健省が評価ツールを全国の保健医療施設に導入するサポートを行い、データ収集の完了後は州保健局を支援して保健医療施設の衛生行動や設備の改善に取り組む予定です。現在、カンボジアでは地方分権化計画の一環として、経済・財務省から保健医療施設に直接補助金が出されるようになっていきます。この計画に水・衛生を結び付けられれば、保健医療施設でも補助金を活用して水・衛生の改善に取り組もうという動きが加速する可能性があり、今はまさに保健医療施設の水・衛生を改善する絶好のタイミングといえます。



WaterAid/ Prashanth Vishwanathan

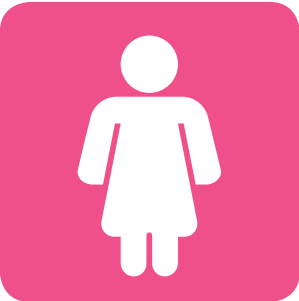
学校で生理用ナプキンを配る先生
(インド・マディヤ・プラデシュ州)

衛生習慣

Hygiene

インドの月経衛生プロジェクト

学校の月経衛生管理促進ポスター。ヒンズー教の祭典クンブ・メーラにて(インド)



WaterAid/ Prashanth Vishwanathan

インドの女の子を取り巻く水・衛生/月経衛生管理事情

インドに暮らす思春期の女の子1億1,300万人のうち、約6,300万人は家にトイレがありません。月経についての知識も乏しく、それを教えるはずのお母さんたちも月経は不浄と考える人がほとんどです。衛生的な生理用品の使用については改善傾向にあるものの、月経衛生管理は社会文化的背景に根差した複雑な問題であり、水・衛生への取り組みだけでは改善することができません。また、学校は衛生習慣を広める絶好の場である一方、月経に対する差別的風潮を助長する場にもなりかねず、思春期の女の子のうち学校に通っている子は約60%、月経中は学校を休む子が24%、学校で生理用品を替える子はわずか37%という調査結果もあります。水・衛生設備の改善とあわせて月経衛生管理に対する認識の向上が求められるなか、ウォーターエイドは、月経に関する認識を高めてタブーをなくす、月経衛生管理に対応したトイレを広める、長期的に変化を持続できる環境を整える、という多角的なアプローチを展開しています。

学校におけるアプローチと状況に応じたアプローチ

ウォーターエイドでは、こうしたアプローチを用いて主に学校における月経衛生の促進に取り組んでいます。先生やピア・エデュケーター向けに作成した教材を使って月経衛生の情報を広め、差別的な風潮をなくすとともに、月経管理に対応した水・衛生設備(女子用個室トイレ、手洗い用石けんなど)の整備を進めようとしています。それにはまず環境づくりが不可欠なため、女の子が安心して集まって月経の話ができる場を確保し、先生など影響力のある人に月経衛生改善の活動をサポートできるようになってもらうことに重点を置いています。また、国や地方政府が予算を割いて総合的な月経衛生管理プログラムを後押しするよう働きかけも行っています。

ウォーターエイドインドは11州で活動しており、月経衛生管理の改善については基本部分で共通しているものの、各州政府にあわせてそれぞれ異なる戦略をとっています。アンドラ・プラデシュ州とテランガナ州では生徒がコア・グループを結成し、情報提供や月経に対する好ましい見方・考え方の促進、仲間のサポートなどを行うほか、複数のコア・グループが連合して地域・州レベルの政策を変えるアドボカシー活動も展開。ウツタル・プラデシュ州では保健局に働きかけ、州全体でウォーターエイドの教材が現場に導入されました。マディヤ・プラデシュ州では女性子供開発局を技術面でサポート。思春期の女の子が月経衛生管理や安全な製品に関する情報を利用できるようになりました。また、東部地域ではジェンダー間の格差をなくして月経衛生を改善するために、コミュニティや学校で積極的に活動しています。

月経衛生改善のチャンスと包括的プログラム

現在インドが実施している「クリーン・インド、クリーン・スクール(Clean India, Clean Schools)」キャンペーンでは、学校の水・衛生における月経衛生の重要性が謳われています。また、飲料水・衛生省が2015年に発表した包括的な「学校の月経衛生管理ガイドライン」では、政府が部門間の垣根を超えて月経衛生管理プログラムの改善に取り組むこととされており、2017年4月の同省指令でも、このガイドラインの実施が求められています。国のトップレベルで月経衛生管理に対する支持が得られた今、ウォーターエイドは独自のアプローチとノウハウを活かして月経衛生管理プログラムの情報を広める絶好の機会に恵まれていると言えます。

月経衛生管理改善の動きが加速するなか、進捗のモニタリングや実態を測定する指標も必要となります。さらに、学校での活動と並行して、学校に來ていない女の子や障害を持っている女の子を支援する方法も考えなくてはなりません。さまざまな活動の集約を要する包括的プログラムと状況に応じた政策によって、インドの月経衛生は大きく変わろうとしています。ウォーターエイドは今後も、その一翼を担っていきます。

ウォーターエイドの活動国



メンバー国

1

カナダ

2

アメリカ

3

イギリス

4

スウェーデン

5

インド

6

日本

7

オーストラリア

地域事務所

34

セネガル

35

南アフリカ共和国

プログラム実施国

8

ニカラグア

24

モザンビーク

9

コロンビア

25

マダガスカル

10

シエラレオネ

26

スワジランド

11

リベリア

27

パキスタン

12

マリ

28

ネパール

13

ブルキナファソ

29

バングラデシュ

14

ガーナ

30

ミャンマー

15

ニジェール

31

カンボジア

16

ナイジェリア

32

東ティモール

17

エチオピア

33

バプアニューギニア

18

ウガンダ

19

ルワンダ

20

ケニア

21

タンザニア

22

ザンビア

23

マラウイ

ウォーターエイドが支援を届けた人々

清潔な水

157万人

適切なトイレ

234万人

衛生習慣

324万人

日本の活動

アドボカシー

ウォーターエイドは、2030年までに、すべての人がすべての場所で、安全な水と衛生を利用できる世界を実現するために、政策決定者への働きかけを進めています。



第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)

2016年8月27日～28日、ケニアの首都ナイロビで、初のアフリカ開催となる第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)が開催されました。ウォーターエイドは、TICAD VIIに向けたアドボカシーに取り組む「市民ネットワークfor TICAD」の一員として、TICAD関連会合への参加、成果文書への働きかけなどに取り組んできました。TICAD VI本番では、サイドイベント「急速な都市化と気候変動：アフリカにおける持続可能でレジリエントな水・衛生インフラ開発について考える」を開催。モザンビーク公共事業・住宅・水資源省の給水・衛生局長ニルトン・トリンダーデ氏をはじめ、JICAモザンビーク事務所、株式会社LIXIL、アフリカ開発銀行等のスピーカーが、開発途上国のインフラ投資や貧困削減、気候変動、水・衛生について議論しました。



G7伊勢志摩サミット

2016年5月26日～27日、伊勢志摩にてG7サミットが開催されました。ウォーターエイドは前日の5月25日に開催された、市民社会によるメディア向けパフォーマンス「17人18脚」にSDGsの目標6の担当として参加。トイレコスチュームを着用していたことから新聞社のインタビューを受け、水・衛生が保健や教育など他のゴールとつながっているように、それぞれの目標の連携が重要であることを訴えました。

LIXILグループの衛生に関する報告書に協力

株式会社LIXILグループは、2016年8月25日、衛生環境の未整備が原因で世界経済に大きな損失が生じていることについての調査報告書「衛生環境の未整備による社会的損失の分析」を発表しました。本報告書の作成には、イギリスの研究機関Oxford Economicsと並んでウォーターエイドも協力しました。同調査によると、2015年に衛生環境の未整備が世界経済に与えた損失は約22兆円にのぼります。なかでも最も大きいのが人的損失の約12兆円。トイレが普及していない地域で発生しやすい下痢は世界で7番目に多い死因となっており、こうした衛生環境の不備に起因して人々が早期に命を落とすことによって、潜在的所得が失われ、家族や国に経済的ダメージを与えています。



情報発信

ウォーターエイドは、スピーカークラブや団体主催・外部イベントなどを通じて、開発途上国の水・衛生問題を積極的に発信しています。



スピーカークラブ

ウォーターエイドは、世界の水と衛生の状況を日本でより多くの人に知ってもらい、考えてもらう機会を提供するため、2015年、ウォーターエイド・スピーカークラブを立ち上げました。スピーカークラブは、高校生以上で1日のスピーカー講習会を受講した方が「スピーカー」としてメンバーになる、というしくみです。2016年度は、パナソニックNPOサポートファンド、TOTO水環境基金の助成を受けて、日本の6都市と高校2校でスピーカー講習会を実施、スピーカークラブの在籍メンバーは合計153人となりました(2017年9月現在)。スピーカークラブによる授業が「東京オリパラ教育プログラム集」などに掲載された結果、年に8回、スピーカークラブのメンバーによる授業が行われました。



墨田区の水循環講座

2017年3月、ウォーターエイドは墨田区より委託を受け、水の循環を通して世界の水と日本の水について楽しみながら学べる体験型学習講座「水の水の循環講座—すみだと世界をつなぐ水の大切な話」を計5回実施しました。水に関する数多い課題の中から、「食と水」「気候変動と水」「トイレと水」など毎回1つのテーマを取り上げ、各テーマに関する施設見学や街歩きを実施したほか、それぞれのテーマについて国内外の事情に詳しいスピーカーを招き、水を通じて世界とのつながりを考える機会になることを目指しました。

ウォーターエイドジャパンを 支えてくださった皆さま

2016年度、ウォーターエイドは、皆さまと一緒に、水とトイレ、衛生習慣によって多くの人の生活を変えることができました。皆さまの温かいご協力に心から感謝いたします。

アサヒグループホールディングス株式会社

アビームコンサルティング株式会社

大阪マラソン

花王株式会社

花王ハートポケット倶楽部

麒麟株式会社

gooddo株式会社

株式会社STOKE company

TOTO株式会社

株式会社ナック クリクラ事業部

パナソニック株式会社

BSIグループジャパン株式会社

三菱商事株式会社

株式会社LIXIL

外務省主催NGOインターン・プログラム

外務省NGO海外スタディ・プログラム

墨田区

アビーム コンサルティング 株式会社

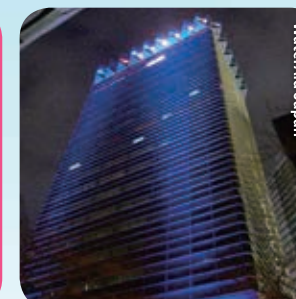
2013年より毎年、ネパール、エチオピア等における水・衛生プロジェクトにご寄付をいただいています。2016年度は、東ティモール事業にご寄付いただいたほか、社員10名がウォーターエイドのチャリティランナーとして大阪マラソンに参加してくださいました。また、同社の本業であるコンサルティングを通じて、スピーカークラブの運営に関するアドバイスをいただいています。



WaterAid Japan

アサヒグループ ホールディングス 株式会社

ウォーターエイドと同じく墨田区に本社を置く同社は、世界水の日（3月22日）に、ウォーターエイドが世界で同時展開する啓発キャンペーン「Blue4Water」に対し、本社ビルをきれいな青で照らして賛同してくださいました。また、ウォーターエイドが実施委託を受けた墨田区主催の「水の循環講座」においても、会場の提供や当日の進行等を通じてご協力いただきました。



WaterAid Japan

株式会社ナック クリクラ事業部

2016年、同社の宅配水サービス「クリクラ」が、利用者に付与するポイントの交換先の1つとして、ウォーターエイドへのご寄付を入れていただきました。毎月継続的に多くの方々よりウォーターエイドのご寄付を選んでいただいております。そのご寄付は、ウォーターエイドの各地での水・衛生プロジェクトに大切にに使わせていただいております。



株式会社ナック

株式会社LIXIL

同社が開発した低価格、高品質、かつシンプルな開発途上国向けトイレ「SATO」。ウォーターエイドは、2013年にバングラデシュにおいてSATOの試験的導入に協力、以降、同国をはじめ、複数のウォーターエイドの活動国において、SATOの普及に取り組んでいます。また、2017年4月に始まった同社の「みんなにトイレをプロジェクト」を通じて、タンザニアの衛生改善にご支援いただいております。



株式会社LIXIL



平成28年度 会計報告

Wateraid/Ernest Randharmala

活動計算書 (単位:円)

収益

受取会費	50,000
受取寄付金	28,929,735
受取助成金	2,000,000
事業収益	4,736,410
その他収益	39,940
合計	35,756,085

費用

事業費	
・広報・開発教育	13,903,737
・アドボカシー	2,455,491
・水・衛生事業／募金	15,969,477
管理費	3,184,621
法人税等	70,000
合計	35,583,326

貸借対照表 (単位:円)

資産の部

流動資産	
・現金預金	4,099,691
・未収収益	1,516,320
・仮払金	200,000
固定資産	
・ソフトウェア	74,970
・保証金	840,000
資産合計	6,730,981

負債の部

流動負債	
・未払金	1,263,138
・預り金	623,814
・未払い法人税等	70,000
負債合計	1,956,952

正味財産の部

前期繰越正味財産	4,601,270
当期正味財産増減額	172,759
正味財産合計	4,774,029
負債及び正味財産合計	6,730,981

ウォーターエイドジャパンは、2016年度の会計等について以下の監査を受けています。
●監事による業務および会計の監査 ●高野寛之公認会計士事務所による財務諸表の監査

ウォーターエイドジャパンについて

ウォーターエイドは、2012年より日本法人設立の準備を開始。2013年2月に、「ウォーターエイドジャパン」として、東京都より特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けて、法人としての歩みを始めました。ウォーターエイドが日本法人を立ち上げた理由の1つに、日本は水と衛生分野において、世界で最大の援助供与国であることが挙げられます。世界の水・衛生の改善に大きな役割を果たしてきた日本から、水・衛生の重要性について発信していく必要がある—そう考えて日本法人を立ち上げました。

概要

- 法人設立:2013年2月15日
- 認定NPO法人認定:2014年12月19日
- *ウォーターエイドジャパンにご寄付をいただく個人・法人の皆さまは、税制優遇を受けていただくことが可能です。
- 常勤職員数:3名

ウォーターエイドジャパン 役員

滝沢 智 / 理事長
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授

赤羽 真紀子 / 理事
CSRアジア 日本代表

池上 清子 / 理事
プラン・インターナショナル・ジャパン理事長、
長崎大学大学院熱帯医学グローバルヘルス研究科教授

小寺 清 / 理事
元世銀・IMF合同開発委員会事務局長、
前国際協力機構(JICA)理事

活動

- 世界の水・衛生問題について関心喚起をするための情報発信
- 世界の水・衛生問題に関するアドボカシー・政策提言
- 途上国における井戸建設、トイレ建設、衛生教育などの水・衛生事業、およびそのための募金活動

高橋 郁 / 理事
特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン事務局長

橋本 淳司 / 理事
ジャーナリスト／アクアスフィア代表

和仁 亮裕 / 監事
モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所
／伊藤 見富法律事務所 弁護士

ご支援いただく方法

1

毎月の寄付「オアシスギフト」

毎月、一定額を継続してご寄付いただく仕組みです。途上国の人々に清潔な水と適切なトイレを届けるための活動を、長期的に支えてください。
<http://www.wateraid.org/jp/get-involved/donation>

2

Yahoo! JAPANネット募金

クレジットカードによるご寄付、またはTポイントによるご寄付が可能です。
<http://donation.yahoo.co.jp/detail/5012001/>

3

スピーカークラブ・メンバーになる

学校やイベントで授業を行うボランティアグループです。不定期で開催している「スピーカー講習会」を受けることでご参加いただけます。詳しくは
info-japan@wateraid.orgまでお問い合わせください。

4

ボランティア・メンバーになる

ウォーターエイドジャパンは翻訳/イベント/事務作業など、随時ボランティア・メンバーを募集しています。詳しくは
info-japan@wateraid.orgまでご連絡ください。